

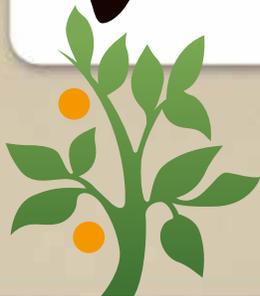
支えあう喜びを新しい世代へ

Issue Number

37

Calebasse

からばす



CARA

ASSOCIATION POUR LA COOPERATION ET L'AUTOGESTION RURALE EN AFRIQUE DE L'OUEST



企画/編集/発行

カラ=西アフリカ農村自立協力会

からばす37号発行に当たって

村上 一枝

前回、2016年11月にからばす36号をお届けし、その後1年以上の間お休みをいただきました。

昨年2017年3月にカラは法人格を返上し、1993年の会発足時のように任意団体となりました。一番大きな理由は、現地の人々、特に女性が力強く自立してきたことです。知識を得、技術を知って収入を得ることが出来るようになりました。村に指導出来る女性が生まれ、男性も女性に理解を示すようになりました。

更に力強いことに地域の行政が支援してくれるようになり、カラが開設した産院にソーラパネルや小型の冷蔵庫、その他の備品を寄付してくれます。これまで薬品を100kmも離れたクリコロ町まで買いに行きましたが、近頃はコミンでストックしてくれるようになり大変便利になりました。これは、他のコミンよりも抜きん出て発展してきたことに対するコミン長の喜びや自慢の表れであり、カラが現地を離れた後もコミンの更なる発展を望んでのことと思います。

また他の大きな理由は、我々日本人のマリへの渡航が制限されてきたことです。ご存知のようにマリの主要都市で度々発生するテロの為です。そして現地スタッフからの連絡で「数ヶ月後に大統領選挙があり、選挙が終わらないと安全にはならない」ということなので、「その後の渡航がベターである」ということです。支援活動を行っている私たちが常に考えていることは、支援はいつまで、どのあたりまで続けるか？ということなのです。

このような事情で、思い切ってカラの支援事業を縮小し、村の人たちの手で可能になった事業は手放そう、ということになりました。産院運営も女性適正技術の活動も識字教室・野菜栽培や植林も全て村の管理になりました。現地スタッフも数人解雇しました。P2へ→



マリ政府要員の正式な帯をまとったトゥグニコミュン長 (写真右)

彼らは村の指導者になり、覚えた技術で生活を支えています。

村の人たちはカラと共に歩んできたこと、そこから生まれた成果を確認し誇りと自信を持って更に自立への道を歩んでいます。

今後は、カラが過去に事業を展開していたバググ村からの要請を受け、この地域の保健環境改善事業を行うことにしました。バググ村周辺の人たちもトウグニコミュンの発展を見、聞き目覚めた感があります。今までのトウグニコミュンでの支援活動は周囲の地域に強い印象を与えていることは確かです。

 教育熱の高まり

ダウンバコミュンのニヤマコロブグー小学校(2015年度建設)と、シンザニ中学校2校の就学児童と、ゲンドウ小学校(2016年度建設)、ドンギネ小学校、コニナ小学校(3教室増築)とモバ小学校の4校の就学児童の動向を表にしました。

この表からもお分かりのように、建設後は生徒数が非常に増加しました。特に女兒の就学率が高くなりました。これは他の事業にも関係しています。村から助産師が誕生し、女性リーダーの活躍が女兒の未来に大きな夢を与えたのです。

都会から遠く離れた村で、子供たちはグループになり徒歩で何キロもの道を歩いて通学して来ます。新しい学校が完成したこと自体も勉学へのモチベーションになりました。両親は、「寒い時期でも雨でも勉強が出来る、小さな子供も安心して通学させられる」と非常に喜んでいて、学校の清掃も母親たちが行っています。マリでは小学校6年・中学校3年と合計9年間が義務教育ですが、小学校数も教師数も不足していて、31ヶ村あるトウグニコミュンで中学校は2校だけです。まだまだ先の長い話です。

ダウンバ地域新学校生徒数動向

	2017年10月 新学期的状況						2017年10月 新学期 総生徒数	2016年10月 (新学期)	2015年 (開設時)
	中学 1年生	中学 2年生	中学 3年生						
シンザニ中学校	女:15 男:42 計57人	女:12 男:13 計25人	女:07 男:17 計24人				女:34 男:72 計106人	女:26 男:37 計:63人	女:7 男:16 計:23人
生徒数23人('15年10月開校時)→63人('16年10月新学期)→106人('17年10月新学期)と、開校時から4.6倍に増加。									
ニヤマコロブグー 小学校	小学 1年生	小学 2年生	小学 3年生	小学 4年生	小学 5年生	小学 6年生	女:106 男:99 計205人	女:59 男:71 計130人	女:34 男:46 計80人
	女:20 男:24 計44人	女:22 男:26 計48人	女:19 男:14 計33人	女:15 男:16 計31人	女:13 男:10 計23人	女:17 男:09 計26人			
生徒数80人('15年10月開校時)→130人('16年10月新学期)→205人('17年10月新学)と、開校時から2.56倍に増加。									

トウグニ地域新4小学校生徒数動向

	2017年10月新規生徒数						計	新規校舎建設前 生徒数 2017年6月迄	
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生			
コニナ小学校	女:47 男:33	女:39 男:28	女:30 男:22	女:27 男:16	女:19 男:28	女:17 男:22	総生徒数:328人 女:179/男:149	総生徒数:268人 女:142/男:124	59.97%増
モバ小学校	女:28 男:20	女:16 男:14	女:23 男:15	女:20 男:24	女:17 男:18	女:26 男:23	総生徒数:244人 女:130/男:114	総生徒数:185人 女:120/男:65	31.89%増
ドンギネ小学校	女:30 男:24	女:20 男:19	女:21 男:18	女:20 男:17	女:17 男:19	女:20 男:22	総生徒数:247人 女:128/男:119	総生徒数:127人 女:67/男:60	93.70%増
ゲンドウ小学校	女:26 男:17	女:20 男:22	女:16 男:22	女:15 男:16	女:13 男:10	女:17 男:09	総生徒数:203人 女:107/男:96	総生徒数:83人 女:47/男:36	73.45%増
計							総生徒数:1022人 女:544/男:478	総生徒数:663人 女:370/男:287	53.69%増

 女性健康普及員(通称KMT)の活動

今、一番張り切って積極的に活動をしているのがこの女性主体の活動です。

現在トウグニ地域では雨季の農繁期の数ヶ月を除いて31ヶ村で毎月155人のKMTが指導者になって「話し合い学習会」を実施しています。この活動も8~9年が経過しました。人々は繰り返し繰り返し学習して、多くのことを知り理解してきました。

その結果、下痢はゼロになり、産院での安全な出産が普及し、祈祷師による自宅出産は殆ど無くなりました。多くの方が政府で定めている妊婦定期検査を受診するようになった結果、3割の妊婦に見られた妊娠中毒症が全くなり、過重労働の為に多かった流産も、特殊な症例以外は無くなりました。感染症の原因をよく理解して、母親は出稼ぎの息子にエイズについて教えているそうです。家族計画にも夫の理解が得られるようになり、一緒に産院に相談に来るようになりました。殆どの子供がユニセフの予防接種も受けるようになりました。本当に多くの事が変わってきました。

2018年からは、毎週3家族を選んで学んだことが家庭で活かされているか否かを、KMTが立ち入り調査を行うことになりました。清潔な環境を徹底していない家庭には実地指導を行うそうです。これらは全て村のKMT自身の発案です。

ダウンバコミュンでも、バググ村中心にKMTの育成が始まりました。

2017年7月から計画されていたバググ地域のKMT育成が、11月から本格的に始まりました。この育成研修は2018年の雨期終了頃まで継続されます。先に育成された6ヶ村30人のKMTに加え、更に7ヶ村に30人のKMTが加わり。最終的に13ヶ村に約60人のKMTが誕生します。そして2018年農閑期頃からは、それぞれの村で人々に啓発学習を行うようになります。

近頃は、30キロも離れた異なるコミュンからこの活動を聞き付けてカラの保健事業への要請があります。しかし遠路の為に外かけて行くことが難しいのと、その経費の捻出が困難です。そのような村からは、村から自主的に代表が研修へ参加しています。何年か後には、村から村へ、人から人へ多くの知識が広がって行くことを期待しています。

この事業は、2008年にJICAの資金で3年間の事業としてスタートしました。文字の読み書きを知

らない人が病気予防や公衆衛生、感染症、家族計画、母子衛生、安全な出産等、日常生活にスタートし関わる正しい事項について学習し、主婦・女性の力で家庭内から疾患の発症を防ぐ試みです。カラ主催の研修を受け、終了後は村の健康普及員として人々に啓発活動を行うのです。人前で話した経験が無く、しかも常に男性から束縛されて暮らしている女性たちが、指導者になるべき研修を受けるのですから、大変な困難が予測されました。しかし幸いにスタッフのアワの情熱、KMTメンバーに選ばれた女性たちの知らない知識を得ることに対する真摯な学習態度、育成研修場所となった村の親切な対応に支えられ、女性達は乾いた砂が水を吸い込むように学習を受け入れてくれました。地域全体の協力を得て3年間にわたる事業は終了し、その後のKMT各自の村での人々への啓発学習会も、村が一体となり実行継続され、現在の成果が得られるようになったのです。そして他の地域からも高い評価を得て関心の高い事業になりました。



KMTの学習会に参加した村の人たち。

今まで「死は神様が導くことだからしかたがない」と幼い子供の死を納得していた意識を変えなければいけません。それは、全て我々の忍耐にかかっていることで、学習した内容はKMTメンバーの記憶頼りになるため、忘れてしまうことも多いのですが、幾度も同じ事を繰り返して指導します。

指導する側もガマンガマンで、忍耐が必要です。そうしなければ住民に覚えてもらい、我々をも信じてもらうことは出来ないのです。この事業は野菜栽培や適正技術の活動と違い、直ぐ利益を得ることも収入を得ることも出来ない、ある意味精神的な事業、心を揺り動かすための事業でもあるのです。人々と一体になり、生活や病気の苦しみを共有し理解を得る、そうでないと成果を見ることは出来ないと思います。この後も事業は継続します。カラの誇れる事業の一つです。

村に産院が開設されるまでの経緯

村の女性が助産師になることを条件とし、運営管理に村人が関わるという住民主体の開設です。何ゆえにこの事業が女性の意識を変えたか？ それはやはり身近にいる女性が専門職に就いた、ということではないでしょうか。村では就学経験があって読み書きが出来る人は貴重な人材です。1993年、カラがバググ村で支援事業を始めた時は村に病気が多く、産院と診療所の開設を強く望んでいました。状況を調査したカラは、村民会議の結果、看護師と助産師を育成しようということになりましたが、育成医療機関では高卒者が条件でした。確かにその理由も理解できますが、地方は極悪な医療状況であり、しかも村には小学校を終了している男性は1人か2人、女性の場合は2・3人が小学校を中退しているだけの状況でしたので止む無く諦めました。

しかし、20年以上経過した現在は受け入れ側の状況が変わり、小学校を終了していなくてもフラ

ンス語が読めれば研修を許可してくれるようになり、村側も変わってきました。現在、助産師育成研修中のシラブレ村の女性は中学校卒業です。2018年2月ドゴニ村から助産師研修に派遣される女性は町の高等学校を卒業しています。但し彼女たちの取得する資格は医療従事者として最低のカテゴリーです。しかし十分に人々の役に立っています。村からの助産師誕生は女性達への強い刺激となり、女兒の就学率が高くなってきました。両親は「たとえカラがいなくなっても勉強すれば助産師にもなれるし、職業に就くことが出来る、これは将来非常に大事である」と意識してきました。また、男性優位の社会で女性が村から選ばれてKMTメンバーとなり、男性も参加する学習会で指導的な話をすることは、女性たちに勇気と自信を与えると同時に、家族の誉にもなり夫の喜びも大きいのです。

一方、村の識字学習でも女性が非常に熱心です。トウグニ地域では識字教師がギニア国境の金鉱へ出稼ぎしたので授業が出来なくなりました。その為にからのアシスタントスタッフが識字教師となり、村へ指導に行き給料を貰っているのです。女性たちは給料が支払えるようになり、アシスタントスタッフも地域に貢献しています。



右の女性がシラブレ村助産師のマリアムジャラ、研修中のアサコバファ診療所の指導者たちと。

新しい産院・診療所の運営・管理状況

2016年、会員の方からのご寄付で開設したニャマコロブグー村の産院・診療所と、JICS(国際協力システム)の支援で開設されたバググ村の産院・診療所は、順調に運営管理されています。この2ヶ村の産院・診療所開設以降の運営状況が下の表です。産院・診療所に係る全ての経費は自主委員会の管理です。村では運営状況が良いので、助産師と看護師の給料を2017年11月から月に5,000cfa(日本円約1,000円)のアップを決めました。

会員の方のご寄付で現在シラブレ村に産院を建設中です。2017年秋に勃発したテロやストライキの影響で道路が閉鎖され、資材が運ばれるのが遅れ、建設も遅れていましたが、2月現在この状況も徐々に改善されてきました。

バググ村産院及びニャマコロブグー村産院・診療所の管理運営状況

	一般診療科来院者数	産院来院者数	資金(2017年12月現在)
バググ村産院・診療所 (2016年5月開設)	753人	150人	1,960,615cfa(392,123円)
ニャマコロブグー村産院・診療所 (2016年7月開設)	639人	216人	1,105,639cfa(221,128円)

ファニ ネゲタブグー村女性多目的センターの建設

このセンターもカラの会員の方のご寄付により建設が開始されています。今回建設のファニネゲタブグー村女性センターは、カラが1996年にこの地域で活動を開始した時に、女性の収入獲得の為に適正技術の習得を勧めても関心がありませんでした。しかし他の地域での活発な活動が村の女性達に火をつけました。ここでは女性の識字学習も適正技術の指導も行います。

宮城学院中学校高等学校クリスマスマーケット (2017.12/7)

この日、カラ代表がクリスマスマーケットのバザー参加の為に仙台へ行ってきました。宮城学院の遠藤純子先生の指導で生徒さんたちがマリの工芸品の販売員となり、また生徒さんたちの手づくりの品物を販売して下さいました。ご父兄のブースの売り上げのご寄付も頂戴しました。多くの方は2016年のアワの宮城学院の訪問の時のことをよく覚えて下さり、アワの思い出やアフリカ料理のことなどを楽しく話していらっしゃいました。長い間このようにご支援下さる宮城学院中学校高等学校の方々、ご父兄に心から感謝申し上げます。

「かけはし2017」報告 (2017.12/3)

今回は日本歯科大学のご厚意により同校の九段ホールをお借りして開催いたしました。会場の座席数は204席ですが、補助椅子が出る程の盛況振りでした。

出演はいつもの通りに原田康子さんと中上香代子さんのピアノ伴奏、ゲストにニューヨークから20弦箏奏者の黒澤有美さんをお招きしました。黒澤さんは日本の古典の曲、ご自身作曲によるものや、ビバルディの「四季」を20弦琴用に編曲した曲等を演奏して下さいました。穏やかに、時には激しく、細やかな技法で奏でる曲はとても表情豊かでお客様を魅了しました。特に「白い思い出」はお客様の心に強い印象を与え「とても美しく気持ちよかった。素晴らしい演奏でした」と評判でした。

カラのコンサートのお客様の8割は常連の方々です。原田さんの歌にはファンが多く、北は秋田・盛岡、南は九州からのお客様です。みなさん2018年のコンサートでの再会を楽しみに帰路につかれました。

「白い思い出」を歌う原田康子さん(左)と、琴は黒澤有美さん(右)



カラ=西アフリカ農村自立協力会

<http://ongcara.org/>

東京事務局

〒177-0054 東京都練馬区立野町7-9 クリオ吉祥寺壺番館101

Tel:03-3929-5767

E-mail: centre@ongcara.org

バマコ事務局

BP E367 BAMAKO MALI

Tel:223-2020-9096